

令和3年度 第1回宝達志水町 総合教育会議 会議録要旨

開会日時	令和3年10月21日(木) 午前10時
会議場所	宝達志水町生涯学習センター 2階 第1会議室
出席者	寶達町長、細江教育長、大崎教育長職務代理者、松田委員、市村委員、近岡委員
欠席委員	なし
説明員	村井総務課長、笠松学校教育課長兼小学校総合準備室長、坂井生涯学習課長、定免公民館長兼図書館長
開会	10時00分

1 開会 町長あいさつ

2 議題

(1) 小学校統廃合について

笠松学校教育課長兼小学校統合準備室長が小学校統廃合に向けての経過報告について(資料No.1)説明した。

(2) 現在の学校教育事業について

笠松学校教育課長兼小学校統合準備室長が資料No.2に基づき説明した。

(3) 現在の生涯学習事業について

坂井生涯学習課長が資料No.3に基づき説明した。

(4) 各教育委員からのご意見等について

(5) その他

3 閉会 教育長あいさつ

【小学校統廃合について委員の意見等】

近岡委員

- それぞれの学校には、地域との交流があり、合併することで、子どもたちに少し不安な気持ちが出てくると思われる。子どもたちが、新しい学校が楽しみだと思えるようなこの町でしかできない交流行事を実施してほしい。

学校には、地域の人々の思いがあり、それぞれ廃校になった学校の未来像も踏まえて考えてほしい。

小学校統廃合の各部会のスケジュールをわかるように示してほしい。また、統合に向け、子どもたちが安心できる目に見えるようなものを作成してほしい。

大崎委員

- 地域の学校には、愛着がある。今の学校の成果を維持しながら、準備だけでなく、どのように繋いでいくかが課題である。今、それぞれ頑張っている生徒を大切にしな

がら統合した学校に確実に繋げていくことが必要だと思う。

また、廃校となる学校については、校区の方が満足できるような活用を望む。

細江教育長

- 近岡委員、大崎委員から話があったように、合併を3年半後に控え、子どもたちには不安な気持ちはあるというのは、そのとおりで、来年度から、各校交流活動を進めていく。学校の良さを引き継いでいくため、どの学校の活動を残すかなど検討し対策を進め、2校に引き継ぎできるように調整していく。町PTAの活動も踏まえ、保護者にお伝えしていく。

廃校の活用については、廃校活用委員会を考慮しており、文科省の廃校活用のオンラインを参考にし、早めに立ち上げ、地域の方のご意見を聞きながら、町の思いとマッチングさせて進めていく。

パソコンIT活用については、合併時に5校に格差がでないよう学年に応じた力をつけるように計画を立てている。

笠松学校教育課長兼小学校総合準備室長

- 先ほど、専門部会の進捗状況という話もあったので、現在決まっていることをお伝えする。校名の募集期間は、令和4年1月16日から2月15日の1カ月間。方法については、町民1人につき、学校ごとに1点。1校につき一人1点ずつ、2校あるので2点まで応募ができ、どちらか1点でも構わない。また、町外在住の小学校卒業生も応募可能で、町広報やホームページにも案内していく。投票箱も町内数十カ所、スーパーにもお願いし、ポスター等を貼って啓発して行こうと考えている。

通学部会については、スクールバスを押水地区は、押水第一小、宝達小を運行する。志雄地区は、志雄小学校は、現状どおり運行し、樋川小学校は、学区が志雄小学校が近くなる集落の児童もいるので、検討課題である。

寶達町長

- 統廃合の進み具合は、教育委員には、その都度お示しするようになっているのか。

笠松学校教育課長兼小学校総合準備室長

- 部会が終わるごとにメール等で後日お知らせしていく。

寶達町長

- 準備委員会等の決まった内容を委員のみなさんに、お知らせしてほしい。子どもや保護者のみなさんなど関係者に、ご理解いただくためにも情報公開していくことが大事であり、例えば、ケーブルテレビで枠を取るのも一つの手段でよいのではないかと考えている。

市村委員

- 学校同士交流を実施して、保護者との理解を進めていくと思うが、令和7年に向け

ていろいろ発展させるにはやはり人だと思う。宝達志水町に来られた先生方は、外へ行かれてもいろんなところで活躍している、統合時に復任してもらうことは、子どもたちの能力を上げていくために必要ではないかと思う。難しいことだと思うが、3年間かけて、本町に来てもらうことが大事ではないか。

寶達町長

- 難しいことではあるが、優秀な先生方を確保していかなければならないと思う。

市村委員

- 新聞などをみると、優秀教員になられた町外勤務の宝達志水町の先生もおられるので、よろしくお願ひしたい。

寶達町長

- 現実的には、優秀な先生はひっぱりだこになる。

大崎委員

- よろしくお願ひしたい。統合した後のこともあり、良い先生を配慮してほしい。

松田委員

- 地域のボランティアが活躍している。登下校の見守り隊など、今後も活躍できる場を続けていけたらと思う。そのような話し合いは、されているのか。

笠松学校教育課長兼小学校総合準備室長

- 準備委員会の中で実施している。

寶達町長

- 見守り隊や安協の方が交差点で立って下さっている。何らかの形で今後も協力してもらえるようにしていかなければと思う。

細江教育長

- ボランティア活動が、統廃合が行われたことで活動の場が無くなり、学校に関わらなくなっていくという大きな課題をいろいろ地区で聞いている。PTA・区長等との話し合いをしていくうえで、そうならないように検討していきたい。

寶達町長

- 学校運営に対して、どんな方にご支援いただいているか、どんな方と関係があるのか見直していただき、それぞれの方にどんな設問をしなければならぬかを考えてしっかりとやってもらいたい。

松田委員

- 新しい学校のビジョンが見えてきていない中で、町民が新しい学校を作るというわくわくするような仕組み作り、見えるような仕組みがあったほうが新しい学校に対する思いができるのかと思う。

寶達町長

- 学校に対する慕いを持っていただけるように持って行くことが、重要ではないかと思う。

細江教育長

- 町民のみなさんに、オープンに学校をつくる必要がある。区長の意見など前に進む意見で進めていきたい。各部会の方針を待って、地域の方と取り組んでいければと思っている。

寶達町長

- 多くの意見をいただいた。町民のみなさんには、今、ご指摘いただいたことを含め、情報をお示ししていかなければならない。みなさん、お気づきの点があればご意見いただきたい。

【現在の学校教育事業についての委員の意見等】

市村委員

- 東大セミナーなど外部の講師を招いて学びの場があったことは、本当に良かった。児童や生徒にはまた違った角度から刺激があって非常に良いことではないかと思う。今までは、中学3年生だけだったが、いずれは1、2年生から少しずつ学びの場を増やす調整をお願いしたい。

芝生化の件は、子どもの怪我等防止の観点からもよいのではないか。運動場の芝生化を進めていってほしい。

町長、学校教育課をはじめ、子どもたちのためにいろいろ取り組んでいるが、今後の展開について構想があればお聞きしたい。

寶達町長

- 中学校では、外部の先生に来ていただいている。これを1年生からということであるが、支障が無い限り広げてやればよいと考えている。

芝の苗植えについては、生徒、保護者など多くの方に参加いただいて、皆さんと一緒に学校を作り上げていく良い取り組みになったのではないかと思っている。

これまで、この町は、地域のみなさんに愛され、ご協力いただいて、作り上げてきたこのことを新しい学校においても継続していかなければならない。

外部の先生方の取り組みについては、テレビで、「更に学習に対する意欲が湧いてきた」、「将来に向けての夢や目標を持って、また勉強に頑張られるようになった」という姿もいくつか見た。大きな目標として自分がどんなものになりたいのか、どんな分野でもいい、大きなことにチャレンジする夢や野心のようなものを持ってしっかり頑

張れるよう子どもたちが育っていく学校。私自身もそうであったが、田舎にいればなかなか外が見えにくく、世間に出るまで、いろんすごい人がいるということを知らず選択肢も狭くなったりする。世界を知ること頑張る力も湧いてくる。そんな子どもたちを育てる教育でありたい、またそんな学校教育が望ましいと思う。

本町は、こういったことに向けての取り組みを始めてこられたと思っている。これからも力を入れてやっていきたいと考えている。

笠松学教教育課長兼小学校総合準備室長

- 市村委員さんが言われた1、2年生も対象にということだが、秋期講座については、3年生対象となっているが、1、2年生も希望をとり講義を開催する予定である。

細江教育長

- 宝達中学生の参加率は、3日間の実施のうち、3日とも出る人、2日出る人、1日出る人、いろいろいるが、生徒の92%が参加することになってる。1、2年生については、希望制をとり、20人強の参加で東大セミナーの準備を進めている。

寶達町長

- 中学校で総合的学習時間の発表会があり、発表の内容を見たが、みなよく考えている。将来、これまで、この地域でなかったような仕事などをして、この町にぜひ残って働いて暮らしてほしい。市村委員さんはドローンをやられており、先駆的に始められた。

私が思っているのは、農業、新しい方の就農など、地域の代表産業を守っていくには、若い人の存在、力が大事であり、そんなところにも目を向けていただいて、若い人にも地域の大事な産業を守っていくことを考えてもらうことである。総合的学習時間を通じて、自分がどんなことで活躍ができるか考えてもらえればと思う。

大崎委員

- 教育総合発表は、良いことだと思う。教育で地域を創生することは大切なことであり、子どもの楽しみも広がる。東大セミナーや西岡壱誠さんと呼ぶことで、子どもたちは学びの機会を得て、視野も広がったと思う。自分の可能性についても意識がついてきたと思う。小中学校の先生方も一生懸命だが、民間の力を活用して、学校教育の足りないところを吸収し、子どもたちの学びをより高いものにしていくことは大切だと思う。こういったことを継続していくことは、大変なことだが効果は上がっていると思う。子どもたちだけではなく、先生方の意識も変わってほしい。

子どもたちの力を伸ばすのは、学校も塾も民間も変わらない。この秋の東大セミナーや西岡壱誠先生の講演を土台として、民間の力を活用し、子どもたちの力を伸ばし、更に本町の教育委員会ももう少し特色があり、子どもたちが、本当に視野を広げ、学びたい機会を持って、人材を育成できるようなものにもって行ければと思う。東大セミナーなどはとっかかりとして、この後、その成果を踏まえながら、いろんなことをしていくのだろうと楽しみにしている。

寶達町長

- 特別講座において、子どもの学力を向上させ、確かなものとして定着していくために、みんなの力や民間と協力してやらなければというご意見をいただいた。今、2年目でこれまで、いいスタートをきった。協力してやってくれるところを継続していくことがこれからの課題である。

細江教育長

- 金沢の育英センターを今年度もお願いしたが、6月以降に都合がつかないということで、東大セミナーで本町出身の方をお願いした。今後も応援してくださるとのことである。

今回は、日曜日開催となる。今年は、西岡壺誠さんにもお願いすることになり、西岡さんには、継続していただける。

今、人の繋がりを多用しており、11月には、2、3年生が講演会を聞くことになった。今後も続けられるよう取り組んでいきたい。

近岡委員

- 子どもの科学実験教室ぜひ続けていってほしい。町ならではの宝達くずなど大事なものがいっぱいある。後継者は少なくなってきたが、好きになるためには知らないといけない。何か体験できることを少し小学校のときにする、農業にも触れるようにしたらいい。高松では紋平柿なんかをやっていた。

小5の子が、田んぼづくりで、安全でおいしい米をつくりたいというのがあった。触れる機会の授業も必要ではないか。本町には、海も山もある。おいしいイチジクもある。おじいちゃんおばあちゃんなどの人材を活かして、知る機会の授業ができたらいいかなと思う。

寶達町長

- 子どもたちの科学実験教室、地域の農業、産業についての関わりはある程度は学校でも実施している。後は、公民館の活動などは、地域の課題についてみなさんで考えて解決を図っていくという意味合いもあるので、公民館等でも取り上げるようなことかとも思う。学校教育課長、公民館館長、今後なにかできるようなことはないか。現状と今後できるようなことはないか。

笠松学校教育課長兼小学校総合準備室長

- ふるさと教育の充実というのは、現場でも言われている。宝達くず会館、宝達小学校、自然では、アサギマダラ、宝達小、押水第一小、歴史においては、末森城、相見小がある。統廃合に向け、各小学校でどういう取り組みをしているか等各学校の取り組みと併せて統合小においても取り入れることを考えている。また、宝達山は昔、金がとれたということで、金沢の箔座さんと連携し、箔押し体験の取り組みを考えている。金沢の伝統工芸もできながら、宝達山にも昔、金が採れたという歴史も兼ねた特

別講座も開催予定である。

定免公民館長

- 中央館として1館だけなので、校区ごとの地域に根ざした子どもから大人の活動がおろそかになっているのは事実である。ただ、中央館として、小学生、親子、お年寄りまでの行事は日々行っている。去年、今年は、夏休み前後に文化財の関係で勾玉を作りながら郷土史に触れたりした。
子どもたちが地域の学習に触れる場として、年に1、2回の講座は開催している。

松田委員

- 世界を知ることは大事。コロナ禍で生涯学習の社会体験ができない。そういった世代が今後なんらかの形で社会体験できないのか。

細江教育長

- コロナ禍で活動が1年半ほどできていない。子どもたちにも影響はでるだろうという話はでている。ようやくいろんな体験活動が動き出しているが、新たな体験というのは、カリキュラム上難しいが、新しいアイデアを練っているところである。科学実験教室は予算が通れば来年度も準備を進めていただいていい。算数チャレンジ教室も考えている。地域おこし協力隊で英語が堪能な方の募集もかけるなど、いろいろなチャレンジできる場を増やしていきたい。

松田委員

- インターネットの時代で、世界へチャレンジできることがたくさんあるので、どんどんチャレンジしていけるような支援をお願いしたい。

寶達町長

- いろいろな機種が導入されているので、後は何を取り上げてやっていくのか。身近なところでいろいろやっている方もいらっしゃるので、ご協力を得てやっていけたらと思う。

細江教育長

- 市村委員さんには、学校でドローンの体験学習をしてもらっている。宝達高校でも特色ある高校の一つにもできるのではないかと考えている。ドローンを本格的に指導してもらえるところがこの辺にはなかなかない。

【現在の生涯学習事業についての委員の意見等】

大崎委員

- 宝浪漫マラソンについては、コロナ禍にあってもフリーランとして実施して良かった。今度は本当の大会を楽しみにしている。
ヒルクライムについては、コロナ禍などもあり、今後どんな予定か。

坂井生涯学習課長

- ヒルクライムについては、昨年度、今年度もコロナの関係で中止とさせていただいた。主な理由としては、ボランティアを依頼している自転車専門学校自体が、生徒がコロナ禍で集まらず、ボランティアが出せない状況である。来年度以降は、ボランティアが確保できるかも含めて、開催はやりたいと思っているが、できるかどうかも含め検討させていただきたい。

大崎委員

- 本町の公民館は、分館はないが、いろいろな講座をアステラスとさくらドームで開催し、参加しやすいように工夫している。合併で、地域の結びつきが弱くなっており、地域は、小学校単位でまとまっている。分館があれば、地域で学習や行事ができるが、全部を分館でというのは無理があるので、統合された後の地域について、何かするときには、サポートをしてほしい。また、コロナ禍での祭りも消えかかっているところもあるのでサポートしていただきたい。

七尾市の高階校区は、地域の活動が活発であり、私たちも見習って地域を盛り上げる活動をしていきたいと思っているが、統合された地域がバラバラにならないようサポートや工夫をしてほしい。

寶達町長

- 地域における人の流れ、それを基にした活動、活用の枠組みがあって、公民館がある。30年くらい前の資料では、運動会など公民館、地域活動は多くあったが、そういうものはだんだん無くなってきている。できれば、公民館がその役割を果たせるようにしていければという話はしている。

地域の何かに焦点をあてた活動、講座はやっていきたいと思っている。そして、その成果を人なりものなり指摘してやっていくことが大事である。公民館に民間の人に入ってもらい活動してもらうのが本来の形なのではないか。地域のみなさんで自発的に活性化していけるような枠組みの公民館として、私たちも動いていきたい。

大崎委員

- 地域自体を盛り上げるよう私たちもやっていきたいと思っている。

寶達町長

- 地域のみなさんが一緒にやれるような、年代を超えて関わりを持てる公民館としてやって行きたい。

近岡委員

- 10月に町内6カ所で実施した花火大会は、地域の人たちが集まり、本当によかった。みんなで楽しんだとあちこちで聞いた。新しい取り組みで、町はできることを取り組んでおり、ありがたい。町の元気のためにまたやってほしい。地域の人たちは感

謝していた。公民館行事で正月の縁起物蓬莱切り絵教室など、ぜひ続けてやってほしい。

大崎委員

- 統合されたとき地域のことについては、どういう風に盛り上げていくかは、地域で考えることで、地域でやらなければならないと思うが、町にも何か手助けをお願いしたい。

寶達町長

- 花火については、賛否両論だった。何かすればいいというのはいろいろあるが、役場主体や青年部など、実施する人が決まってくるという問題がある。
実施するなら、広く実行委員的な人を求めて実施していき、SNSで募ったりしてやって行きたい。最初からできないというのではなく、いろいろなことを試しながら実施していくことも大事で、そんな中から、繋がりや協力できる体制が得られるのではないかと思う。

(以上)

閉 会 11時39分